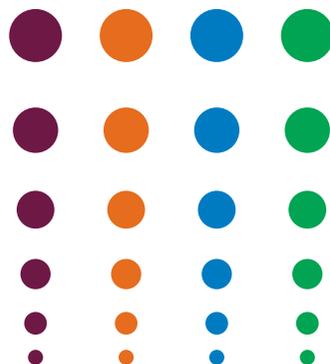


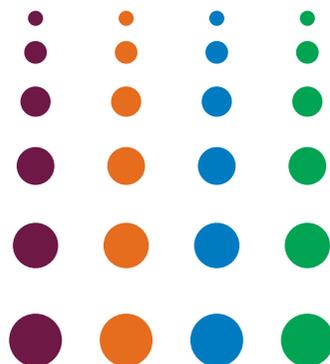
LAWSON



VALUE BOOK

第33期 中間報告書

2007年3月1日～2007年8月31日



ローソンは、マチに合ったお店づくりを行うお客さま一人ひとりにとっての「マチのとなることを目指します。」

Q1

当中間期の連結業績について説明してください。

A1 まず、当中間期の連結決算の概要を説明いたします。加盟店の増加によるロイヤリティ収入や、子会社の株式会社ローソン・エイティエム・ネットワークスのATM手数料収入の増加などにより、営業総収入は前年同期比7.0%増の1,533億9千2百万円となりました。また、営業利益は運営力の強化に伴う人件費の増加により販売費及び一般管理費が増加したものの、営業総利益が増加したことに伴い、前年同期比5.5%増の255億2千1百万円となりました。また、経常利益は店舗解約損が増加したものの、営業利益が増加したことにより、同じく4.8%増の255億1千4百万円となりました。

これらの結果、中間純利益は前年同期比3.3%増の123億1千6百万円、1株当たりの中間純利益は117円94銭となりました。今後も当社を取り巻く環境はより一層厳しくなることが想定されますが、下期も引き続き客層の拡大に向けての施策に取り組んでまいります。

Q2

国内ではCVS(コンビニエンスストア)が飽和状態にあると聞いていますが、どのように勝ち残っていくと考えていますか。

A2 CVS業界を取り巻く環境をみると、CVSチェーン各社の大量出店、長時間営業を行う大手スーパーやファストフード店の拡大など業態の垣根を超えた競争は激しさを増しています。当社のみならずCVSチェーン各社の店舗の売上は厳しい状況が続いており、その結果、加盟店一店一店の収益は減少傾向にあります。しかしながら、CVSチェーン各社は新規大量出店による成長の維持という従来型の競争を続けています。

当社は大量出店による成長という構図から脱却すべく、今ある店舗の活性化により加盟店の収益の改善に努めます。併せて、質にこだわった出店と店舗クローズの抑制によって店舗数の純増を確保することで、継続的な成長を維持してまいります。

今ある店舗を活性化するポイントは「お客さま層の拡大によるお客さま来店数の増加」であると考えています。そこで、2007年度は以下の施策を柱に取り組みを進めています。

ことで、 ほっとステーション」

①個店カルテの活用

個店カルテの目的は「マチのお客さまを知ること」にあります。当社では、個店カルテというツールを利用し、一店一店の商圈分析を行い、そこから導き出される仮説をもとに、商圈内のお客さまのニーズに合った品揃えを実現し競争力を高めています。約8,600店の日々の店舗運営において蓄積された「個店カルテ活用の成功事例」を他の店舗と共有することで、すべての店舗において「マチに合ったお店づくり」の実現を目指し、お客さま来店数の増加に努めます。

②ポイントカードの強化

従来から発行してきたクレジット機能付きカードの「ローソンプラス」に加えて、「マイローソンポイント」というクレジット機能のないポイントカードを昨年からは展開し、両カードの会員数は500万人を超えました。ローソンを繰り返しご利用頂くことでポイントが貯まり、ローソンならではの特典を手に入れることができます。また、ポイントカードの購買情報をもとに、お客さまが求める商品を品揃えすることもできるようになります。ポイントカードは特に女性からの支持が高く、お客さま層の拡大に向けた重要なツールとなっています。



代表取締役社長 新浪 剛

③ローソンプラスの展開

ナチュラルローソンやローソンストア100のノウハウを既存のローソン店舗に取り入れた「ローソンプラス」を前期から展開しています。同業他社との厳しい競争を勝ち抜くために効果的なフォーマットであることが検証できたため、下期は個店カルテの分析によりお客さまのニーズのある立地を中心に店舗のローソンプラス化を推進してまいります。通常のローソン店舗にもマチのお客さまのニーズに応えるため、生鮮食品の一部導入などを推進し、お客さま層の拡大を意識したお店づくりを進めてまいります。

Q3

地域間格差が拡大しているようですが、地方の店舗における現状と対策を教えてください。

A3 地域間で経済、所得格差が拡大しつつあり、特に地方では少子高齢化が加速しています。その中で当社は、全国7支社(北海道、東北、関東、中部、近畿、中四国、九州)へ権限委譲を行い、各地域に応じた商品開発・店舗運営に注力しています。

例えば、都心部で売れている商品が地方でも必ず売れるかというところではありません。これは、お客さま層や店舗立地などが異なることのほか、お客さまが好まれる味付けも地方によって異なることが要因として挙げられます。そこでローソンでは、各支社に商品開発部門を設置し、それぞれの地域のお客さまが慣れ親しんだ味付けの商品や地元名物料理をモチーフにした商品を開発しています。また、各地域で生産された原材料を使用した地域限定商品を販売するなど、「地産池消」の考えに基づいた取り組みも実施しています。

また、店舗運営においては個店カルテによるマチの分析を行い、その地域に合ったお店づくりを行っています。この個店カルテの分析に基づき地域特性からニーズが見込める場合は、小分けにした野菜や果物、卵・豆腐などの日配品や地元の調味料などの品揃えを強化した改装フォーマット「ローソンプラス」の展開を進めていきます。さらに、このローソンプラスにおいて、昔から馴染みのある地元名産品なども提供し、高齢者の方の来店が見込める立地では、休憩スペースの設置や軽量

ショッピングカートを導入するなどの実験も行っています。ローソンは幅広いお客さま層にご来店いただけるようなお店づくりを目指してまいります。

また、地方自治体との包括提携などを進めることによって、各地方における有力な情報を商品開発、店舗運営、店舗開発に活かすとともに、地方における社会貢献活動に注力してまいります。これらの活動を通じて地域活性化の一翼を担うとともに、より一層地域に密着した店舗展開を目指します。

Q4

人材不足が深刻化しているようですが、どのような対策を講じていますか。

A4 地方では少子高齢化が進み、また都市部では景気回復による雇用情勢の改善により小売業ではクルー(パート・アルバイト)さんの不足が深刻化しており、当社でも店舗運営の柱となるクルーさんの不足が深刻化しています。そこで当社では以下のような施策を実施しています。

① 専門組織による人材不足対策

店舗運営の柱であるクルーさんの不足を解消するための専門部署を設置し、今まで店舗主体で行っていたクルーさんの採用をローソン本部が支援する新たな仕組みづくりに取り組んでいます。また、外国人クルーの採用にも対応するため、中国語等で書かれたクルー育成用冊子や店舗支援ツールも作成しています。

②情報システムを含むインフラの整備による

店舗作業時間の削減

2008年から2009年にかけて店舗における情報システム、レジスター、ストアコンピューター、Loppi（マルチメディア情報端末）、店舗オペレーション機器類の全面刷新を計画しています。新システムを導入することで店舗における作業時間の軽減を図り、少ない人員で店舗運営ができる体制作りを可能にしていきます。また、簡単な清掃で店舗の美観が維持できるセラミックタイルを床材に使用するなど、作業時間の軽減にも努めてまいります。

Q5

最後に株主の皆さまにメッセージをお願いします。

A5

少子高齢化の進展、地域間格差の拡大、CVS市場の飽和など当社を取り巻く環境は厳しいものがあります。このような環境下で当社は、標準化による効率の追求という従来型のCVSチェーン経営ではなく、ローソンが一人ひとりのお客さまにとって「マチのほっとステーション」となることを実現し、経営理念である「みんなと暮らすマチを幸せにする」ことを目指します。従来の枠組みにとらわれない取り組みをすることが企業価値の向上、ひいては株主の皆さまの利益に繋がるものと確信しております。

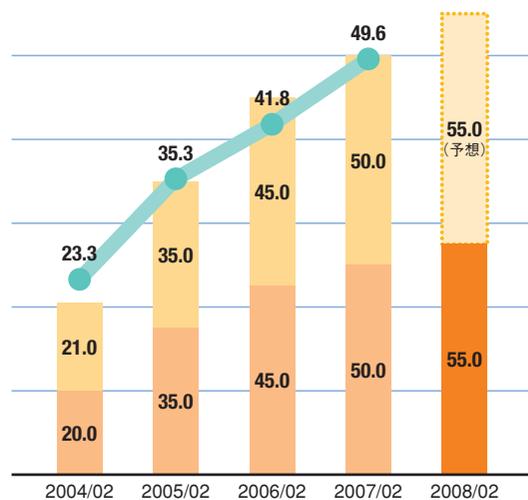
また、株主還元策としては、配当金をもってすることを柱とし、状況に応じた自己株式の取得・消却も視野に

入れています。特に、配当金につきましては、2004年度から4期連続増配し、当期の1株当たり年間配当金は1株につき110円（前期比10円増、2003年度比69円増）を予定しております。また、下期に210億円（発行済株式総数の約5%）を上限とした自己株式の取得を行うことを決定しました。これを通じて引き続き積極的に株主の皆さまへの利益還元に努めてまいります。そして、株主の皆さまからの「ローソンは他社とは違う」「ローソンなら何かやってくれる」という期待にお応えできるよう企業活動を続けてまいります。

株主の皆さまにおかれましては、引き続きご支援ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

配当金と配当性向の推移

■ 期末配当(円) / ■ 中間配当(円) / ● 配当性向(%)



●●●● 地域に合わせたお店づくりへの取り組み ●●●●

ローソンがそのマチ、その地域のお客さまに合った「マチのほっとステーション」になるための施策として、ローソンプラスの全国展開、支社制に基づく取り組みを紹介します。

地域の客層に合わせて改装を加速 「ローソンプラス」

ローソンは、2006年から、既存店活性化策の一環として「ローソンプラス」の全国展開を開始しました。ローソンプラスとは、それぞれのマチのお客さまのニーズに合わせて、既存の「ローソン」店舗を改装し、新しい品揃えをプラスした新型店舗です。新しいローソンへの想いを込め、店舗デザインには、日の出とともに大空を染める太陽の色「サンライズカラー」を採用しています。

ローソンプラスは、コンビニエンスストアの主力客層である20～30才代の男性に加え、これまでコンビニエンスストアになじみの薄かった中高年齢層や女性のお客さまにもご利用いただきやすいお店づくりを目指しています。通常のローソンで扱う各種商品に加えて、野菜や果物などの生鮮食品の小分け販売や卵、納豆など日配品を充実させるほか、ローソンストア100で開発したお買

い得感のあるプライベートブランド「バリューライン」シリーズも提供しています。

今後もお客さまのニーズのあるエリアを中心に、ローソンプラスへの改装を進めていきます。そのマチのあらゆるお客さまにとって便利で心地よいお店づくりを通じて客層を拡大し、既存店の活性化を図っていきます。



● ローソンプラス広瀬通店



ローソンプラス広瀬通店は、幅広い層のお客さまにご来店いただけるよう、2007年3月に通常型のローソンからローソンプラスへ改装し、新たにオープンしました。商業立地と住宅立地の特徴を兼ね備えた同店舗は、野菜や果物などの生鮮食品や、卵・豆腐・納豆などの日配品の品揃えを強化することによって、従来のお客さまに引き続きご来店いただきながら、主婦や中高年齢層のお客さまにもご来店いただけるようになりました。また、玉ねぎ、キャベツ、バナナなどの青果を小分けにして販売することで、一人暮らしや小世帯のお客さまに適量の食材を提供しています。

各地の味と嗜好を捉えた 「地域密着型の商品開発」

ローソンでは、全国7つの支社に商品開発部門を設置し、地元の食材を使った商品や各地の名物料理を商品化するなど、各地のお客さまに親しんでいただける商品開発に努めています。例えば、各県の食文化に特色のある東北地方では、「地産地消」「伝統食文化」メニューの商品開発を推進しています。2007年3月からは、東北各県の



「ローソンみちのく味めぐり」フェア
福島県の味



「ローソンみちのく味めぐり」フェア
宮城の味

味が楽しめる「ローソンみちのく味めぐり」フェアを順次開催し、「地産地消」の考えのもと、福島の老舗「会津天寶醸造」の会津味噌を使った「焼味噌おにぎり」や、宮城県亘理産栃おとめの苺ジャムを使用したベーカリー「とっておき宣言 イチゴ&ホイップクリームパイ」などを発売しました。また、8月には東北3県の地元発祥の「ご当地焼きそば」3品を発売するなど、各地のお客さまが慣れ親しんだ味覚を提供し、ご好評をいただきました。



黒石風つゆ焼きそば
(青森)



横手風焼きそば
(秋田)



新潟風イタリアン焼きそば
(新潟)

さまざまな立地への 「積極的な出店」

ローソンは、お客さまのニーズに合わせて、生活に便利な地域密着型のお店づくりを進めています。従来のマチ中への出店だけではなく、各地域の企業や団体・自治体

などとの提携によって、より便利な立地への出店を強化しています。学校や病院、郵便局をはじめ、地方庁舎内、地下鉄や私鉄などの駅構内、さらには高速道路内パーキングエリアなどにも出店し、それぞれの立地に応じた柔軟な店舗運営を行い、さまざまなお客さまのご要望にお応えしています。

●ローソン福島県立医科大学附属病院店

福島県最大規模の同病院において、医療関係者の忙しい日常を手助けするとともに、入院されている患者さんにとって必需品となる肌着や衛生用品、介護用品なども豊富に取り揃え、院内生活を24時間サポートしています。



●ローソン宮城県庁店

仙台の中心部に位置する宮城県庁舎の福利厚生施設として、職員の皆さんの日々の生活をサポートするほか、パスポート取得などに訪れた一般来庁者の皆さんにもご利用いただけるよう、イートインスペースを設けてお迎えしています。



●●●● さまざまな客層を意識した商品力強化への取り組み ●●●●

お客さま一人ひとりの嗜好やこだわりを大切に、
そのマチに生活する皆さまの健やかで楽しい毎日をサポートする
魅力的な商品を提供していきます。

健康をお手軽に

「カラダいきいき宣言」

コンビニエンスストアをご利用されるお客さまの中には、「なんとなく健康を意識はしているが、そのために苦労はしたくない」と思われている方が多くいらっしゃいます。そこでローソンは、2007年3月から「カラダいきいき宣言」と題し、手軽に健康感を感じていただける商品を集めたキャンペーンを開催しています。

第1弾の「春のカラダに！ネバネバ王国」、第2弾の「はちみつフェア」に続き、2007年4月には第3弾「色を食べよう」を展開。食材の持つ自然の「色」をテーマに、調理麺やサラダをはじめ、弁当、寿司、おにぎり、惣菜、

漬物、調理パン、ベーカリー、デザートなど幅広いアイテムを彩り豊かに取り揃えました。さらに5月には、第4弾「足りてる？食物繊維」と題して、日ごろの食生活ではなかなか摂取できていない食物繊維を手軽に取れるよう、弁当、冷し麺、サラダ、おにぎりなどの身近な商品として、全16品をラインナップしました。



第3弾「色を食べよう」



第4弾「足りてる？食物繊維」

新どんぶりシリーズ 「具材屋」登場

2007年9月から、どんぶり型弁当に新シリーズ「具材屋」が加わりました。お客さまの本物嗜好にお応えして、主に30～40才代の男性に向け、より質の高い“どんぶり”を目指して開発された弁当シリーズです。

最大の特徴は、具材の大きさと豊富な量です。サイズの大きな具材をたっぷりと入れ、見た目にも堪能していただけます。ローソンで提供する他の弁当と比べると、ごはんに対する具材の分量比は最大級。また、それぞれの具材の特性を活かすため、下ごしらえから手間をかけ、それぞれの具材に対して最適な調理方法を用いていま

す。価格は、お買い得感のある495円で統一しました。

第1弾として、モモ焼き、軟骨入りつくね、鶏そぼろと複数の鶏料理を楽しめる「三種の味わい鶏丼」、五穀ご飯にぷりぷりの海老、ふわふわの玉子、具だくさんの野菜あんが調和した「ふわふわ玉子の海老玉丼」の2品の発売を開始。ご好評をいただいております。



三種の味わい鶏丼



ふわふわ玉子の海老玉丼

ますます充実

ローソンの「スイーツ」

スイーツは、いまや生活の一部として多くの人に愛されています。ローソンは、幅広い層のスイーツファンの期待に応え、季節やトレンドに合ったさまざまなスイーツを提供しています。

2007年7月には、夏にぴったりのみずみずしいゼリー系デザート「カフェドリンク風スイーツ」4品を発売。9月には、秋の味覚を代表する素材を使った新商品4品を開発し、「秋を食べようフェア」を開催しました。素材の味を活かした「お芋のミルフィーユ」「渋皮栗のモンブラン」は主に女性のお客さまに、ボリューム感のある「Men'sパフェ」や片手で食べられる「ワッフルバナナ」は

男性のお客さまを中心に大好評をいただきました。

また、中高年齢層をはじめ、健康志向のお客さまに人気の和のスイーツも充実させています。昔ながらの定番商品に加え、一口食べきりサイズで本格和菓子を楽しめる商品も展開しています。

また、2007年8月、中部エリアで発売した「あたらしいプリン」「なつかしいプリン」は、お客さまの声から生まれた商品です。ローソン公式携帯サイト「LAWSONmobile」を通じてプロジェクトメンバーを募集。全国の女性5,000人のご要望をもとに1年半以上かけて開発しました。牛乳、卵、砂糖、生クリームだけのシンプルな配合と手作りに近いこだわりの製法で、「子供にも安心して食べさせられる」と人気を博しています。

Men'sパフェ(モンブラン)

マロン味のムースとキャラメルクリームの上に、焼きプリンをのせたビッグサイズのパフェ。



お芋のミルフィーユ

秋の味覚「さつまい芋」を使用。香ばしいパイ生地としっとりとしたさつまい芋の組み合わせ。

渋皮栗のモンブラン

大きな渋皮栗がインパクト大のミルフィーユ仕立てのモンブラン。



ワッフルバナナ(メープル)

メープルクリームと生バナナのコンビネーション。



カフェドリンク風スイーツ

マンゴーココ/ストロベリーラテ/カフェラテ/抹茶ラテ

暑い季節に人気のさっぱり系デザート。カフェやジューススタンドでおなじみの透明な縦型カップを使用し、鮮やかな色合いも楽しめます。

あたらしいプリン/なつかしいプリン

とろ〜りクリーミーな「あたらしいプリン」と、しっかりとした食感と濃厚なコクが特徴の「なつかしいプリン」。



串団子 草つぶあん / みたらし団子

「いろいろなものを少しでも食べたい」に応える一口サイズの和菓子。



塩ようかん

「体にやさしい素材」が高齢のお客さまに人気です。



●●●● 更なる利便性向上への取り組み ●●●●

全国のマチのお客さまに「便利さ」を提供し、
生活のインフラとなったコンビニエンスストア。
ローソンは、これからも更なる「便利さ」を追求し続けていきます。

ご存知ですか？

ローソンの「ギフト」

ローソンでは、季節や用途に応じた各種ギフトを取り扱っています。お中元・お歳暮シーズンに対応した「サマーギフト」「ウィンターギフト」をはじめ、中高年齢層

向けの商品を充実させた「父の日」「母の日」のギフトや、さまざまなお祝い事や返礼にいつでもご利用いただける「エブリデイズギフト」も展開しています。

ご近所のお店で手軽に手続きができる利便性と、大切な方への贈り物に相応しい厳選された品揃えで、お客さま満足の上へに貢献しています。

「母の日」「父の日」ギフト

「母の日」と「父の日」に向けたギフト商品を豊富に取り揃えています。2007年は3月から予約受付を開始。多様化するニーズに合わせて、定番のお花はもちろん、女性に人気の和・洋菓子や健康志向の食品、おつまみにも最適な地域特産品なども充実させています。

新宿中村屋 お母さんありがとうカステラ2本入

卵をたっぷり使ったソフトなカステラ。カーネーションの絵柄と、「お母さんありがとう」の2種類の焼印が入り、食べやすくスライスしています。



ロビンフード いちごのモンブラン

ブルーベリー入りの甘酸っぱいクリームと爽やかないちごクリームをたっぷりのせたモンブラン風のケーキです。

エブリデイズギフト

さまざまなギフト商品を常時品揃えしています。「秋の甘味処」特集など季節に合った商品をお選びいただけます。「のし」の指定も承ります。

秋の甘味処 あまげん 一粒菓瀬戸の栗

大粒栗を丸ごと皮むぎ餡に入れて、卵の黄身だけの生地で焼き上げた逸品です。



サマーギフト

2007年のサマーギフトは、女性からの支持が高い健康を意識したナチュラルローソンの商品や、受け取る方の健康を考えた自然派のギフトなど、全547アイテムを取り揃えました。市場の動向に合わせて受付開始を早めたほか、より選びやすいカタログデザインに変更しました。



北海道 富良野メロン【秀品】2玉

富良野の昼夜の寒暖差によって育まれた糖度14度以上の甘くなめらかなメロンです。



味家 さつまあげ詰合せA

イトヨリ鯛すり身に厳選された地酒と黒糖を用いた昔ながらの味付けに仕上げました。



ASO NATURAL ICE 阿蘇天然アイス特選ギフトセット

小国ジャージー牛乳をはじめ、素材にこだわった無添加で自然のおいしさたっぷりのアイスです。

トピックス

●子育て応援店舗「ハッピーローソン山下公園店」がオープン

2007年7月12日、子育て支援に積極的に取り組んでいる横浜市とのコラボレーションにより、「ハッピーローソン山下公園店」がオープンしました。お子さまの遊び場で秘密基地のような大型木製立体遊具、カフェや休憩スペースを併設し、親子の大切なひとときを提供しています。また、ミッフィーグッズなどのお子さま向けの商品を充実させるとともに、横浜ブランドである「横浜001」のグッズや食品も取り揃え、地元の活性化にも貢献しています。創業30周年記念の一般公募により実現した子育て応援コンビニは、本年6月まで期間限定で営業した「ハッピーローソン日本橋店」のノウハウを活かし、より一層進化していきます。

ハッピーローソン
山下公園店



●「ケータイバッグ」「ケータイお箸」の運動を推進

ローソンは、お客さまのご協力のもとレジ袋と割り箸の削減を目指し、マイバッグやお箸をつねに持ち歩く“ケータイ運動”を推進しています。従来から実施している店舗での声掛け運動を強化するとともに、コンビニ用に開発したケータイバッグ「コンビニecoバッグ」や野球のバットに使われるアオダモの不適格材から作られるケータイお箸「みどりのかけ箸」の普及に努めています。2007年9月には、地球温暖化防止に向けた国民運動「チーム・マイナス6%」が推進する「私のチャレンジ宣言」を応援するため、ナチュラルローソンでの「コンビニecoバッグ」のプレゼントや、ケータイお箸「みどりのかけ箸」の値引きサービスを行うキャンペーンを実施しました。今後も企業の社会的責任として、省資源、省エネルギー、緑化活動、廃棄物の削減等を積極的に進めることで、持続可能な社会の構築に貢献していきます。



●能登半島地震、新潟県中越沖地震に対する救援活動を実施

ローソンは、阪神淡路大震災発生直後においても店舗を営業し続けたことで、被災地の方からたくさんの感謝のこぼえをいただきました。その想いを胸に、大規模災害の発生時にはライフラインの一部として継続的な営業活動に努めています。また、地方自治体などと協定を結び食料などの救援物資を提供するほか、店舗における救援募金活動を実施しています。2007年3月の能登半島地震、同じく7月の新潟県中越沖地震に際しても、おにぎり、カップラーメン、水などの救援物資をお届けしたほか、店頭での救援募金活動を展開し、本部寄付金を含め約4,000万円の義援金をお届けしました。今後も地域社会の一員として、被災地の救援・復興支援を継続していきます。



救援物資輸送トラック

中間連結貸借対照表

(単位:百万円)

流動資産

流動資産は、前期末に比べ161億4千6百万円増加（前期末比10.8%増）し、1,651億6千8百万円となりました。これは主に、有価証券が償還により96億円減少したものの、売上高の増加により現金及び預金が261億2千5百万円増加したことによるものです。

固定資産

固定資産は、前期末に比べ80億9千1百万円増加（同3.2%増）し、2,573億2千7百万円となりました。これは主に、新規出店により有形固定資産が31億9千1百万円増加したことや、(株)九九プラスの株式取得により投資有価証券が32億8千6百万円増加したことによるものです。

科 目	当中間期	前中間期	前期
	(2007年8月31日現在)	(2006年8月31日現在)	(2007年2月28日現在)
●資産の部			
●流動資産	165,168	172,476	149,022
現金及び預金	98,076	89,382	71,950
加盟店貸勘定	8,934	9,221	11,710
有価証券	9,992	35,188	19,592
たな卸資産	1,807	1,685	1,788
未収入金	26,388	21,118	26,002
繰延税金資産	3,412	3,276	2,795
その他	16,667	12,682	15,297
貸倒引当金	△ 111	△ 78	△ 115
●固定資産	257,327	247,878	249,235
有形固定資産	107,446	102,225	104,255
建物及び構築物	85,371	78,144	82,403
工具器具備品	14,942	16,948	15,548
土地	5,657	5,666	4,708
建設仮勘定	1,474	1,465	1,594
無形固定資産	18,321	16,385	15,890
投資その他の資産	131,558	129,268	129,089
投資有価証券	5,856	2,544	2,569
差入保証金	83,762	88,798	87,903
繰延税金資産	12,265	10,540	11,551
再評価に係る繰延税金資産	467	3,330	467
その他	31,556	28,766	30,614
貸倒引当金	△ 2,350	△ 4,714	△ 4,018
資産合計	422,496	420,354	398,258
有形固定資産の減価償却累計額	109,588	99,199	103,849

連結子会社



(株)ローソンチケット

ジャスダック証券取引所に株式を上場しており、主にローソン店舗内のマルチメディア情報端末「Loppi」を通じてコンサート、スポーツ及び映画などのチケット販売を行っております。



(株)ローソン・エイティエム・ネットワークス

主にローソン店舗における共同ATMの設置、管理及び運用に関する業務や、入出金・振込等、共同ATM網を利用した提携金融機関の金融サービスに係る事務受託などを行っております。



(株)アイ・コンビニエンス

携帯電話の公式サイト「ローソンモバイル」を展開し、物販・サービス・情報の提供などを行っております。



(株)ベストプラクティス

コンビニエンスストアに関する実態調査を行い、ローソン店舗の改善に関わる助言及び提案を行っております。

科 目	当中間期	前中間期	前期
	(2007年8月31日現在)	(2006年8月31日現在)	(2007年2月28日現在)
●負債の部			
流動負債	162,973	169,983	143,513
買掛金	81,938	82,441	64,999
加盟店借勘定	3,745	4,186	2,757
未払金	13,438	13,180	16,017
未払法人税等	9,733	9,063	4,754
預り金	47,349	54,194	48,754
賞与引当金	2,534	2,643	2,626
その他	4,234	4,271	3,603
固定負債	54,180	54,774	55,250
退職給付引当金	3,699	3,317	3,526
役員退職慰労引当金	233	200	249
預り保証金	47,745	50,675	49,325
長期リース資産減損勘定	417	126	95
その他	2,084	454	2,053
負債合計	217,154	224,757	198,764
●純資産の部			
株主資本	202,521	195,591	195,366
資本金	58,506	58,506	58,506
資本剰余金	42,229	42,261	42,253
利益剰余金	102,440	95,671	95,344
自己株式	△ 655	△ 847	△ 738
評価・換算差額等	△ 357	△ 4,167	△ 227
その他有価証券評価差額金	155	581	319
繰延ヘッジ損益	8	—	—
土地再評価差額金	△ 682	△ 4,854	△ 682
為替換算調整勘定	160	105	134
新株予約権	91	—	78
少数株主持分	3,086	4,173	4,276
純資産合計	205,341	195,597	199,493
負債純資産合計	422,496	420,354	398,258

流動負債

流動負債は、前期末に比べ194億5千9百万円増加（前期末比13.6%増）し、1,629億7千3百万円となりました。これは主に、売上高の増加により買掛金が169億3千9百万円増加したことによるものです。

固定負債

固定負債は、前期末に比べ10億6千9百万円減少（同1.9%減）し、541億8千万円となりました。これは主に、保証金預託タイプの加盟店の減少により預り保証金が15億7千9百万円減少したことによるものです。

純資産の部

純資産は、前期末に比べ58億4千7百万円増加（同2.9%増）し、2,053億4千1百万円となりました。これは主に、配当金を52億2千万円支払ったものの、中間純利益を123億1千6百万円計上したことによるものです。その結果、自己資本比率は前期末と比べ2.3%上昇し、47.8%となりました。

関連会社

(株)ナチュラルローソン

「美」と「健康」と「快適」をキーワードとする「ナチュラルローソン」店舗の事業フォーマットの展開、商品企画・開発、店舗運営指導業務を行っております。

※今後は更なる成長を目指し、ローソン本体に吸収し業務の効率化を図ることといたしました。

(株)バリューローソン

主婦や中高年齢層のお客さまを主な対象とし、価値ある商品をシンプルプライスで提供する「ローソストア100」店舗の事業フォーマットの展開、商品企画・開発、店舗運営業務を行っております。

(株)ローソン・シーエス・カード

ローソン顧客向けクレジットカードを発行し、マルチメディア情報端末「Loppi」などの各種インフラを通じて、カードサービスを提供しております。

上海華聯羅森有限公司

当社と百聯集団有限公司との合弁事業として、中華人民共和国上海市でローソン店舗のチェーン展開を行っております。

(株)ナチュラルビート

合成の添加物を極力使用せず、自然のおいしさを大切にした素材から一つひとつ丁寧に手作りしたサンドイッチやデリ及びスイーツや飲料などを開発し、ナチュラルローソンを通じて提供しております。

(株)九九プラス

シングルプライス・ストア「SHOP99」の直営及びフランチャイズチェーン展開を行っております。



中間連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	当中間期 (2007年3月1日から 2007年8月31日まで)	前中間期 (2006年3月1日から 2006年8月31日まで)	前期 (2006年3月1日から 2007年2月28日まで)
(チェーン全店売上高)	(721,953)	(706,291)	(1,386,630)
営業総収入	153,392	143,356	283,053
営業収入	110,123	105,825	207,195
売上高	43,268	37,531	75,858
売上原価	31,393	27,250	55,370
営業総利益	121,999	116,106	227,682
販売費及び一般管理費	96,477	91,915	183,168
営業利益	25,521	24,191	44,513
営業外収益	827	805	1,679
受取利息	440	285	650
その他	387	520	1,029
営業外費用	834	648	1,546
店舗解約損	656	343	1,206
その他	177	304	340
經常利益	25,514	24,348	44,646
特別利益	—	295	1,288
固定資産売却益	—	293	746
その他	—	1	542
特別損失	4,852	3,959	9,086
固定資産除却損	1,973	2,214	4,638
固定資産売却損	7	65	90
減損損失	2,260	1,569	1,810
割増退職金	540	—	320
その他	71	109	2,226
税金等調整前中間(当期)純利益	20,661	20,683	36,848
法人税、住民税及び事業税	9,258	7,902	12,377
法人税等調整額	△ 1,221	498	3,011
少数株主利益	307	364	476
中間(当期)純利益	12,316	11,917	20,983

営業総収入

営業総収入は、前中間期に比べ100億3千5百万円増加（前中間期比7.0%増）し、1,533億9千2百万円となりました。これは主に、加盟店の増加によるロイヤリティ収入や連結子会社の(株)ローソン・エイティエム・ネットワークスのATM利用手数料収入が増加したことによるものです。

営業利益・經常利益・中間純利益

営業利益は、前中間期に比べ13億2千9百万円増加（同5.5%増）し、255億2千1百万円となりました。これは主に、新規出店による地代家賃の増加や運営力強化による人件費の増加により販売費及び一般管理費が45億6千2百万円増加したものの、営業総利益が58億9千3百万円増加したことによるものです。これらの結果、經常利益は前中間期に比べ11億6千6百万円増加（同4.8%増）し、255億1千4百万円となり、中間純利益は同じく3億9千8百万円増加（同3.3%増）し、123億1千6百万円となりました。

中間連結株主資本等変動計算書

(単位:百万円)

当中間期 (2007年3月1日から 2007年8月31日まで)	株主資本					評価・換算差額等					新株予約権	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	土地再評価 差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計			
2007年2月28日残高	58,506	42,253	95,344	△738	195,366	319	—	△682	134	△227	78	4,276	199,493
中間連結会計期間中の変動額													
剰余金の配当			△5,220		△5,220								△5,220
中間純利益			12,316		12,316								12,316
自己株式の取得				△0	△0								△0
新株予約権の行使		△24		83	59								59
株主資本以外の項目の中間連結 会計期間中の変動額(純額)						△163	8		25	△130	12	△1,189	△1,307
中間連結会計期間中の変動額合計	—	△24	7,095	83	7,154	△163	8	—	25	△130	12	△1,189	5,847
2007年8月31日残高	58,506	42,229	102,440	△655	202,521	155	8	△682	160	△357	91	3,086	205,341

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	当中間期 (2007年3月1日から 2007年8月31日まで)	前中間期 (2006年3月1日から 2006年8月31日まで)	前期 (2006年3月1日から 2007年2月28日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	44,442	56,325	47,596
● 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 13,712	△ 17,014	△ 31,754
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 5,202	4,422	△ 736
現金及び現金同等物の増加額	25,528	43,732	15,106
現金及び現金同等物の期首残高	75,547	60,440	60,440
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	101,075	104,173	75,547

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、前中間期に比べ118億8千2百万円収入が減少し、444億4千2百万円の収入となりました。

これは主に、法人税等の支払額が減少したものの、当中間期末時点の収納代行による預り金が減少したことや未払金の減少によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、前中間期に比べ33億2百万円支出が減少し、137億1千2百万円の支出となりました。

これは主に、投資有価証券である(株)九九プラスの株式取得があったものの、有価証券の取得が減少したことによるものです。

その結果、営業活動によるキャッシュ・フローから投資活動によるキャッシュ・フローを差し引いたフリーキャッシュ・フローは、前中間期に比べ85億8千万円減少し、307億3千万円となりました。

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは、前中間期に比べ96億2千4百万円支出が増加し、52億2百万円の支出となりました。

これは主に、増配に伴い配当金の支払額が増加したことや、前中間期に発生した自己株式譲渡による収入が当中間期においては発生しなかったことによるものです。

これらの結果、当中間期末の現金及び現金同等物は、前中間期に比べ30億9千8百万円減少し、1,010億7千5百万円となりました。

中間財務諸表

(単位:百万円)

●中間貸借対照表

科 目	当中間期	前期
	(2007年8月31日現在)	(2007年2月28日現在)
●資産の部		
流動資産	150,289	135,696
固定資産	262,480	253,412
有形固定資産	106,648	103,736
無形固定資産	16,595	15,364
投資その他の資産	139,236	134,310
資産合計	412,770	389,109
●負債の部		
流動負債	153,350	134,150
固定負債	53,619	54,701
負債合計	206,970	188,851
●純資産の部		
株主資本	206,233	200,541
資本金	58,506	58,506
資本剰余金	42,229	42,253
利益剰余金	106,153	100,519
自己株式	△ 655	△ 738
評価・換算差額等	△ 525	△ 362
その他有価証券評価差額金	157	319
土地再評価差額金	△ 682	△ 682
新株予約権	91	78
純資産合計	205,799	200,257
負債純資産合計	412,770	389,109
有形固定資産の減価償却累計額	109,247	103,556

●中間損益計算書

科 目	当中間期	前中間期
	(2007年3月1日から 2007年8月31日まで)	(2006年3月1日から 2006年8月31日まで)
(チェーン全店売上高)	(715,814)	(702,869)
営業総収入	137,961	130,372
営業収入	101,235	97,434
売上高	36,726	32,938
売上原価	26,227	23,649
営業総利益	111,734	106,723
販売費及び一般管理費	86,953	82,996
営業利益	24,780	23,726
営業外収益	850	807
営業外費用	740	576
経常利益	24,891	23,957
特別利益	—	293
特別損失	6,487	3,948
税引前中間純利益	18,403	20,303
法人税、住民税及び事業税	8,822	7,678
法人税等調整額	△ 1,273	484
中間純利益	10,853	12,140

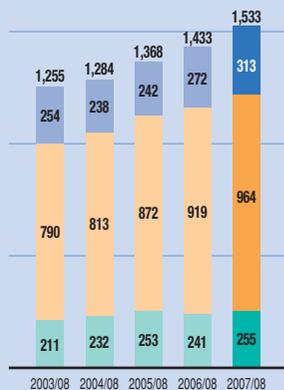
●中間株主資本等変動計算書

当中間期 (2007年3月1日から2007年8月31日まで)	株主資本					評価・換算差額等			新株予約権	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	土地再評価 差額金	評価・換算 差額等合計		
2007年2月28日残高	58,506	42,253	100,519	△738	200,541	319	△682	△362	78	200,257
中間会計期間中の変動額										
剰余金の配当			△5,220		△5,220					△5,220
中間純利益			10,853		10,853					10,853
自己株式の取得				△0	△0					△0
新株予約権の行使		△24		83	59					19
株主資本以外の項目の中間会計期間中の変動額(純額)						△162		△162	12	△149
中間会計期間中の変動額合計	—	△24	5,633	83	5,692	△162	—	△162	12	5,542
2007年8月31日残高	58,506	42,229	106,153	△655	206,233	157	△682	△525	91	205,799

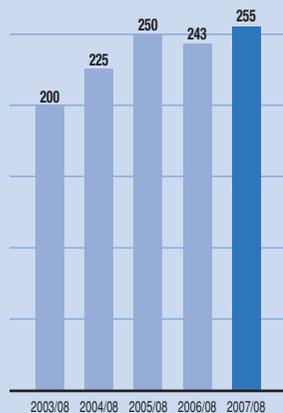
主要連結経営指標

営業総収入 (単位: 億円)

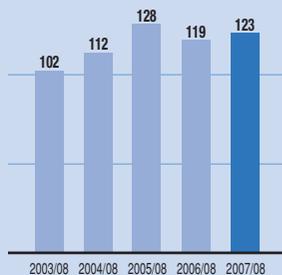
■売上原価/■販管費/■営業利益



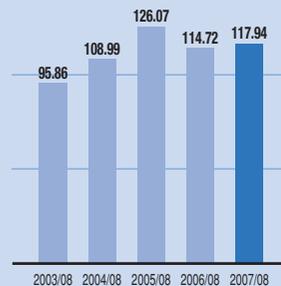
■経常利益 (単位: 億円)



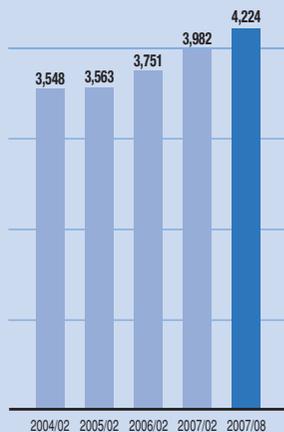
■中間純利益 (単位: 億円)



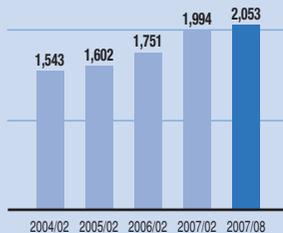
■1株当たり中間純利益 (単位: 円)



■総資産 (単位: 億円)



■純資産 (単位: 億円)



●自己資本比率 (単位: %)



●1株当たり純資産 (単位: 円)



店舗情報

(2007年8月31日現在)

店舗数

国内合計 **8,603** 店舗

中国地方

521 店舗

	店舗数
鳥取	84
島根	76
岡山	122
広島	126
山口	113
計	521

中部地方

1,237 店舗

	店舗数
新潟	109
富山	103
石川	74
福井	86
山梨	62
長野	140
岐阜	102
静岡	149
愛知	328
三重	84
計	1,237

北海道地方

499 店舗

東北地方

778 店舗

	店舗数
青森	157
岩手	167
宮城	160
秋田	140
山形	56
福島	98
計	778

関東地方

2,287 店舗

	店舗数
茨城	105
栃木	105
群馬	71
埼玉	340
千葉	284
東京	893
神奈川	489
計	2,287

近畿地方

1,858 店舗

	店舗数
滋賀	127
京都	197
大阪	836
兵庫	479
奈良	104
和歌山	115
計	1,858

四国地方

426 店舗

	店舗数
徳島	107
香川	99
愛媛	157
高知	63
計	426

九州地方

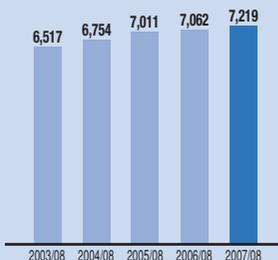
997 店舗

	店舗数
福岡	319
佐賀	62
長崎	81
熊本	91
大分	116
宮崎	86
鹿児島	108
沖縄	134
計	997



(2007年6月末現在)

連結チェーン全店売上高 (単位: 億円)



■直営店舗数

■フランチャイズ店舗数 (単位: 店)

●フランチャイズ比率 (単位: %)



(注) 店舗数は、ナチュラルローソン、ローソンストア100を含めて表示しております。

■平均客数 (単位: 人)

■平均客単価 (単位: 円)



平均日販 (単位: 千円)

■新店平均日販 ■全店平均日販



会社概況・株式情報

(2007年8月31日現在)

会社概要

商号 株式会社ローソン
 本店 〒141-8643 東京都品川区大崎一丁目11番2号
 ゲートシティ大崎イーストタワー
 TEL. 03-5435-2770
 設立 1975年4月15日
 資本金 585億664万4,000円
 社員数 3,284名
 事業内容 コンビニエンスストア「ローソン」の
 フランチャイズチェーン展開

役員 (2007年10月1日現在)

代表取締役社長	新浪 剛	上級執行役員	西口 則一
取締役専務執行役員	森山 透	上級執行役員	河原 成昭
取締役常務執行役員	矢作 祥之	執行役員	篠崎 良夫
取締役上級執行役員	浅野 学	執行役員	森本 憲治
取締役(社外)	田坂 広志	執行役員	水野 隆喜
取締役(社外)	米澤 禮子	執行役員	宮崎 純
取締役(社外)	垣内 威彦	執行役員	野林 徳行
常勤監査役(社外)	中野 宗彦	執行役員	中井 一
常勤監査役	山川 健次	執行役員	安平 尚史
監査役(社外)	小澤 徹夫	執行役員	郷内 正勝
監査役(社外)	桑田 博	執行役員	今川 秀一
専務執行役員	川村 隆利	執行役員	草野 淳
常務執行役員	横溝 陽一	執行役員	関 淳彦
上級執行役員	新倉 茂	執行役員	木島 一郎
上級執行役員	今田 勝之	執行役員	岡田 正俊
		執行役員	前田 淳
		執行役員	山田 忠良
		執行役員	田中 信欣
		執行役員	佐藤 達

株式の状況

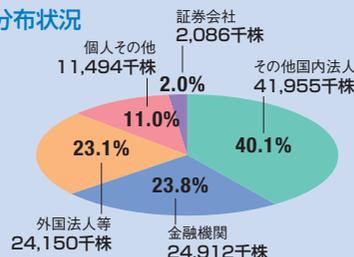
発行可能株式総数 409,300千株
 発行済株式の総数 104,600千株
 単元株式数 100株
 株主数 41,818名

大株主 (上位10名)

株主名	所有株数(千株)	出資比率(%)
1.三菱商事株式会社	32,089	30.7
2.日本トラスティサービス信託銀行株式会社(信託口)	7,173	6.9
3.丸紅フーズインベストメント株式会社	5,939	5.7
4.日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	5,923	5.7
5.資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	2,751	2.6
6.株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ	2,092	2.0
7.野村信託銀行株式会社(投信口)	1,536	1.5
8.野村證券株式会社	1,513	1.4
9.ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー	1,145	1.1
10.ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー-505103	1,013	1.0

株式分布状況

所有者別分布状況



地域別株主数



株 主 メ モ

事業年度	毎年3月1日から翌年2月末日まで
定時株主総会	毎年5月開催
定時株主総会の基準日	毎年2月末日
配当基準日	毎年2月末日及び毎年8月31日
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
(電話お問い合わせ) 郵便物送付先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-7111(通話料無料) 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
公告の方法	電子公告の方法により行います。ただし、やむを得ない事由により 電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。 公告掲載の当社ホームページアドレス http://www.lawson.co.jp/koukoku/index.html

各種手続用紙のご請求について

住所変更、名義書換、単元未満株式の買取り、買増し及び配当金振込指定などに必要な各用紙のご請求は、株主名簿管理人の自動音声応答ダイヤル及びホームページで24時間受付しております。

●自動音声応答ダイヤル 0120-244-479 (通話料無料)

なお、証券保管振替機構をご利用の方は、お取引のある証券会社にお申し出ください。

●当社のホームページからも様々な情報をご覧いただけます。

LAWSON

株式会社ローソン

FCサポートステーション 総務 (株式)
〒141-8643 東京都品川区大崎一丁目11番2号
ゲートシティ大崎 イーストタワー
TEL 03-5435-2774
FAX 03-5759-6944
<http://www.lawson.co.jp/>

発行月 2007年11月

© 2007 LAWSON, INC. All rights Reserved.



●この報告書は、間伐紙(国産材10%+市場回収再生紙90%)を使用しています。
●アメリカ大豆協会認定の大豆油インキで印刷しています。